

檜川村誌 近代編 / 目次

村を築いた人々 木曾・榎川村誌四 近代編

口 絵

刊行のことば

例 言

第一章 近代榎川の幕あけ

第一節 尾張藩民から長野県民となるまで

一 戊辰戦争のあとさき

木曾の民衆と戊辰戦争  
行動する平田門国学者

尾張藩福島総管所

山林政策と土屋惣蔵

二 藩のおわりと県政のはじまり

名古屋県の戸籍づくり  
筑摩県政と改革政治の開始

短かった名古屋県政  
大区と小区の支配

福島取締所による筑摩県政  
筑摩県政と贅川・奈良井の住民

三 長野県民となる

筑摩県がおわり長野県民となる

第二節 西筑摩郡と贅川村・奈良井村の成立

一	郡役所と戸長役場の発足	五三
	西筑摩郡役所ができる	二三
	二三か村連合会と郡連合村会	戸長役場と村会の開設
二	国会開設運動と山林開放の願い	六四
	国会開設を願った自由民権	官有地の払い下げと山林の開放請願
三	村政の展開と連合戸長役場	六九
	経済不況と村民の生活	連合戸長役場ができる
		連合戸長役場の行財政
第三節	土地と税制の改革	八一
一	地租改正による土地と税	八一
	明確になった土地利用	水田開発と地租改正
二	官有地の確立と明き山開放の運動	九〇
	官有地への編入と民有地の利用	明き山の官有地編入と住民
三	村民の税負担	九八
	多様になった住民の負担	学校の設置と住民負担
第四節	戸口の変化と社会集団のうごき	一〇五
一	戸数・人口・家族と伝統的社会集団	一〇五
	贄川村と奈良井村の戸数と人口	家族構成と平均家族数
		身分の変化と名字の分布
二	伝統的的社会集団の変化とにない手	一一七

神社・寺院の行事・祭り 音信帳にみる付きあい

三 新しい結社・社会集団と徴兵による経験……………一三二

文化・政治による新集団と産業結社 徴兵令の施行と西南戦争・兵役

第五節 新しい産業・交通と村の生活……………一三七

一 宿場の変化と鉄道敷設のうごき……………一三七

関所の廃止と宿の変容 道路の改修 中山道鉄道敷設の願い

二 村の生業の漆器……………一四九

村民の生業の特色 漆器の生産と販売

三 村の生活……………一五五

郵便局の創設 農業日記にみる生活 信仰と旅

第六節 伝統文化と文明開化……………一六五

一 御嶽信仰と神仏分離……………一六五

五穀の豊熟を御嶽山へ祈る 神葬祭の普及と氏子札

二 三つの学校の開設と教員・児童……………一七二

賛川・平沢・奈良井の学区と小学校 学区の変化と学校整備

三 文明開化と天皇巡幸・外国人来訪……………一八四

文明開化と生活の慣習 天皇の巡幸と外国人の来訪

第二章 檜川村の誕生と御料林……………一九五

第一節 檜川村が成立する……………一九七

一 贄川村と奈良井村の合併……………一九七

村の合併に反対する意見 平沢住民は合併に賛成した

二 檜川村政のはじまりと村政をになった人々……………二〇七

村役場の人々と村政の展開 村会の開設と村会議員

三 村の財政と村民の負担……………二二三

村政初期の村の財政と村民負担 日清戦後の村財政と村民負担の増減

四 贄川区会・奈良井区会の開設と平沢区会の独立……………二二三

贄川区会の開設と審議事項 奈良井区会の開設と事業 平沢区会の分離と事業

第二節 御料林と郡政・県政・国政……………二四七

一 御料林と贄川出張所……………二四七

御料林の出張所 村民の御料林利用

二 御料林をめぐる村民のうごきと恩賜金……………二五三

木曾御料林問題 御下賜金と村民 御下賜金の利用

三	檜川村と西筑魔郡の政治	二六四
	檜川村民と郡役所・郡会	
	区有開墾地の譲与と御料林対策	
	日清戦争後の郡の行政	
四	県政・国政と村民の政治運動	二八〇
	県会議員・国会議員の選挙	
	普通選挙運動と貧民救済	
第三節	諸産業と交通の変化	二八九
一	諸産業の発展	二八九
	農業・養蚕業の講習会	
	林業	
	内国勸業博覧会への漆器の出品	
二	交通の変化	三〇一
	人力車と乗合馬車	
	鉄道開通前の宿泊	
第四節	人口・家族の変化と新しい社会集団	三〇八
一	戸口・家族のうごきとふえる出寄留	三〇八
	戸口の変化と村民生活	
	ふえる家族と出産・死亡・寄留	
二	新しい村民と社会集団	三二七
	新しい村民のきた地域	
	村へやってきた人々の職業	
	嫁・養子にきた人と他町村へでた人	
	祭りなどの伝統的社会集団	
	平沢禁酒同盟会など新社会集団	
第五節	村の暮らしと日清・日露戦争	三三九

一 伝染病対策と消防組……………三三九

伝染病の流行と予防 消防組の設置

二 日清・日露戦争と村民……………三三六

日清戦争と村民 日露戦争と村民

第六節 小学校教育の発展と神社・信仰……………三三三

一 小学校教育の整備と高等小学校……………三四三

檜川村の四つの小学校 平沢・奈良井・賛川の三校と高等科

二 神社と村民の信仰……………三五二

神社の変化と祭り 石造文化財と村民の信仰

第三章 大正デモクラシーと檜川村民……………三五九

第二節 村政の展開と区会の変化……………三六一

一 村長・村役場と村行財政の展開……………三六一

村長の交替と村政の展開 助役・収入役と村役場 村財政の拡大と歳入の特色

村民負担の増大と滞納 村歳出の内容と変化

二 村会のおこぎと村会議員……………三八一

村会の議事と議員の政治要求 村会議員の選挙と村民

三	部落有林野の統一と森林保護組合……………	三九一
	部落有林野統一委員会    統一林野の管理と保護	
第二節	御料林・県政・国政と村民の政治参加……………	三九九
一	帝室林野管理局木曾支局奈良井出張所と村民……………	三九九
	奈良井出張所    森林の被害    御料林の利用と保護	
二	西筑摩郡政の展開と郡役所の廃止……………	四〇九
	郡役所と村政・村民    郡役所の廃止と郡町村長会	
三	県政・国政と村民の政治参加……………	四一六
	県會議員選挙と西筑摩郡下のうごき    衆議院議員選挙と村民	
第三節	産業の発達と交通の変化……………	四二三
一	諸産業の発達と漆器生産……………	四二三
	村の産業    漆器の生産    農業・養蚕業	
二	中央線鉄道の敷設と村民……………	四三五
	中央線鉄道木曾線の決定    鉄道潰地調査委員の活動    鉄道の開通と交通の変化	
三	山の仕事……………	四四六
	村民の御料林利用    区有山林の利用	
第四節	国政調査による戸口・家族と社会集団……………	四四四

一	国政調査・戸口と村民生活……………	四五四
	国政調査と戸口の把握    戸口の変化と村民の出入り    人口構成と村民の生活	
二	社会のうごきと社会集団……………	四七七
	米騒動・第一次世界大戦の前後    社会集団の組織と運動    村民の病氣と健康増進施策	
	関東大震災と橋川村民	
	第五節 教育の拡充と村民の文化・娯楽……………	四九八
一	実業補習学校と中等教育への関心……………	四九八
	実業補習学校の設置と運営    中等教育への関心	
二	六年制になった尋常小学校と学校生活……………	五二三
	尋常小学校の六年制と校舎    小学校統合問題をめぐる計画と挫折    教員・学級と年中行事	
三	村民の文化・スポーツと祭り……………	五三三
	勇進社の文化・教育活動    スポーツと子どもの遊び    娯楽・映画・幻灯会など	
	神社・寺院と祭り    徳富蘇峰のみた木曾路	
	第四章 大恐慌から十五年戦争への道……………	五五七
	第一節 大恐慌・満州事変と村政……………	五五九
一	大恐慌と村政・村民生活……………	五五九

二	満州事変・失業救済土木事業と村民生活	五八五
二	満州事変の勃発と村政・村民	五八五
二	満州事変の勃発と村政・村民	五八五
二	失業救済の対策と村民	五八五
第二節	戦争にむかう国政・県政と村民	五九四
一	御料林と村民生活	五九四
一	奈良井出張所と村民	五九四
一	御料林火災と村民	五九四
一	愛林防火と村民	五九四
二	国政への村民参加と国民精神総動員	六〇四
二	衆議院議員選挙と政治不信	六〇四
二	国民精神総動員と『檜川村報』	六〇四
三	県政の展開と村民のかかわり	六一九
三	県会議員選挙と村民の投票行動	六一九
三	西筑摩郡町村長会と戦争の影響	六一九
三	経済部西筑摩出張所と村の政治	六一九
第三節	経済更生運動から満州移民へ	六三三
一	経済更生運動と村政	六三三
一	檜川村経済改善委員会の成立	六三三
一	産業組合・農会の更生運動	六三三
一	村政と経済更生の施策	六三三
二	満州移民と蘭花檜川村開拓団	六四九
二	海外在留者と満州移民	六四九
二	分村移民の蘭花檜川開拓団	六四九
第四節	戦争拡大と戦時下の村民生活	六六七

一 常会・隣組と大政翼賛運動……………六六七

常会組織と隣組 常会でとりあげられた事項 大政翼賛会村支部と翼賛壮年団結成

二 村役場の新築と戦時下の村政……………六七九

紀元二千六百年の村政 村役場の新築と村政の展開 太平洋戦争開始と村政

三 戦争のいきつまりと政治のうごき……………六九〇

国会議員の翼賛選挙 地方事務所設置と村政 戦争のいきつまりと村政

第五節 不況・戦時下の戸口と社会諸集団……………七二四

一 不況・戦争による戸口の変化……………七二四

国勢調査と戸口の動向 日中戦争の拡大前後の国勢調査 太平洋戦争前年の国勢調査

戦争の激化と村の産業人口

二 社会諸集団と戦時体制……………七四二

不況下から日中戦争期の諸団体 村から補助金がだされた諸団体

第六節 諸産業のいきつまりと戦時下の村民生活……………七五二

一 村の産業の推移……………七五二

檜川村生産物総価格の推移 養蚕業の推移 漆器の生産と副業

二 交通の変化と森林軌道の利用……………七六四

平沢駅の設置 森林軌道敷設までの御料林の運材 森林軌道の敷設と村民の利用

三	軍事動員と勤勞奉仕	七七六
	軍事動員	
	檜川国民学校報国隊による飛行機工場の勞働	
四	村民生活と戦時統制	七九〇
	村の衛生	
	贊川大火と消防組	
	隣組常会の開催	
第七節	国民学校・青年学校と祭り・宗教統制	八〇四
一	教育行財政と檜川国民学校・独立檜川青年学校へのうごき	八〇四
	教育行財政と小学校二校制	
	実業補習学校・青年訓練所から青年学校へ	
二	軍国主義教育への道と子どもたち	八二四
	不況下の川入分教場と児童	
	戦時下の川入分教場	
	国民学校の発足と軍国主義教育	
	日中戦争の拡大と檜川小学校	
三	戦時体制下の祭り・宗教と統制	八四二
	平沢区の祭り・宗教と教育	
	麻衣廼神社の祭典と御柱	
	宗教諸団体の統制と檜川村	
付録	度量衡換算表・通貨単位	八六六
近代史年表		八六七

あとがき

執筆者名簿

檜川村誌編纂委員会委員名簿

檜川村誌編纂委員会事務局名簿

檜川村誌調査協力員名簿

表目次

表紙『平沢字限図』明治十九年（部分・中田和男家所蔵）